

## 高等学校外国語科学習指導案

日 時 令和7年11月11日(火)  
第3校時 10:35~11:20  
対 象 2年1・2組α(30名)  
学校名 北海道帯広三条高等学校  
授業者 教諭 小竹 由太  
場 所 講義室 313・314

## 1 単元名

Lesson 6 Actions to Reduce Loss and Waste

教科書：CREATIVE English Communication II（第一学習社）

## 2 単元の目標と評価規準

## (1) 単元の目標

日常的な話題（フードロス、フードウェイストの問題）についての英文を聞いたり読んだりしたことを基に、問題の解決に向けた「アクションプラン」について、論理性に注意しながら英語で話して伝えることができる。

## (2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードロス、フードウェイストの問題について話して伝えるために必要な知識や語彙、表現を理解している。</li> <li>・フードロス・フードウェイストの問題について、情報や考えなどを論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードロス、フードウェイストの実態についての確に理解している。</li> <li>・理解した内容を活用し、フードロス、フードウェイストの問題の解決に向けた「アクションプラン」について、論理性に注意しながら話して伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードロス、フードウェイストの実態についての確に理解しようとしている。</li> <li>・理解した内容を活用して、フードロス、フードウェイストの問題の解決に向けた「アクションプラン」について、論理性に注意しながら話して伝えようとしている。</li> </ul>

## 3 指導にあたって

## (1) 題材

本単元では、「食糧問題」を扱っている。日本では、主に“食品ロス”と呼ばれ、「国民に供給された食料のうち本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品」と定義されている。一方で、教科書で扱われている定義は、FAO（国連食糧農業機関）によるものであり、フードロスは「人の消費に当てることができる食料が、サプライチェーンのさまざまな段階で失われ、量が減少すること」であり、フードウェイストは「まだ価値のある食料を処分するという主体的な決定に起因する食料ロスのこと」である。（出版社題材関連資料より抜粋）

## (2) クラスの状況

2年次は、習熟度別クラスを展開している。2クラスをα・β・γの3つに分け、αを発展クラス、β・γを標準クラスとしている（β・γの学力層はおおよそ均等）。本授業の対象はαクラスであり、英語の運用能力には個々に差はあるが、総じて英語に対する学習意欲が高く、大学進学を視野に入れている生徒が多く在籍している。

## (3) 本校の英語授業について

複数教員で展開する科目のため、授業の流れは基本的に共通化している。主な流れは、①導入、②新出語句確認、③リスニングによる内容理解、④リーディング（速読）による内容理解、⑤精読・音読、⑥要約などである。単元末において、ライティング活動を行うことが多く、ループリックを用いて記録に残す評価を行っている。

また、ICTの活用については、個々の教員の自己努力に委ねられている面が大きく、学校全体としての系統的な活用に課題がある。

4 単元の指導と評価の計画 (計 12 時間)

時間	ねらい (■) , 言語活動等 (丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
1	<p>[Part 1]</p> <p>■ 世界の食糧問題への興味・関心を高めるとともに、身近な「食品ロス」について自分の考えを話して伝え合うことができる。</p> <p>【問】 What are some common “食品ロス” problems around us?</p> <p>① 動画視聴を通して、日本における食品ロスの実態について理解するとともに、身の回りの事例について、クラス全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画：NHK for School 『ドスルコスル (どうする？食べものがもったいない) 』</li> </ul> <p>※教科書に記載された、食糧問題に関する Q&amp;A サイトの投稿を理解し、食品ロスが世界的な問題であることを認識する。</p> <p>※単元の目標およびパフォーマンステストの内容について確認する。</p>	<p>毎時間必ず行う。</p> <p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Figjam を用いて事例を共有する。</li> <li>・ Where/What/How の3つの観点で表現するよう伝える。</li> <li>・ 「アクションプラン」 (= 目標達成のための具体的な行動計画) の発表を行うことが目標であることを説明する。</li> </ul>
2 3 4 (本時)	<p>[Part 2]</p> <p>■ サプライチェーンの過程で起こるフードロス、フードウェイストの問題について、問題の原因や結果とともに話して伝え合うことができる。</p> <p>■ クラスメイトと意見交流をしたり、生成AIを活用して表現内容を見直したりすることを通じて、自分の考えを深めることができる。</p> <p>【問】 What is the specific problem in the <u>※</u> process?                  ※食品ロスが起こる5つの段階</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 On Farm</li> <li>2 Packaged, Processed, Stored</li> <li>3 Distributed and Held</li> <li>4 Sold to Consumer</li> <li>5 At Home of Consumer</li> </ol> <p>② 教科書本文を聞いたり読んだりして理解したことを踏まえ、情報や考えなどを伝え合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フードロス、フードウェイストの定義を確認し、日本における食品ロスとの違いを理解する。</li> <li>・ サプライチェーンの過程で起こる具体的な問題について、情報を収集する。</li> </ul> <p>③ 収集した情報を基に、具体的な問題について、原因や結果とともに話して伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話した内容を生成AIに入力し、言語面と内容面から修正を図る。</li> </ul> <p>【教科書英文に関する主な学習活動】                  新出語句確認→リスニングによる内容理解→リーディング (速読) による内容理解→精読・音読→要約→探究的な活動 (発展的な活動)</p>				<p>※「課題の設定」、「情報の収集」に重点</p>

5 5 7	<p>[Part 3]</p> <p>■ フードロス、フードウェイストの問題に関する各国の取組について理解したことを踏まえ、それらの問題が起こる5つの段階ごとの「アクションプラン」の方向性について、グループで話し合ったことを基に、書いてまとめることができる。</p> <p>■ グループで意見交流をしたり、生成AIを活用したりして、自分の考えを深め、自分の考えを書いて論理的にまとめることができる。</p> <p>④ 教科書本文を聞いたり読んだりして理解したことを踏まえ、情報や考えなどを伝え合ったりする。</p> <p>⑤ 自分の考えをグループ内で話して伝え合い、問題の解決に向けた「アクションプラン」の方向性をグループで書いてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIを活用し、言語面や内容面などのフィードバックを得る。</li> <li>・海外の事例を収集するために、アメリカ・ハワイ州ワイパフ高校の生徒の協力を得て、アンケートを実施する。</li> </ul>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。</p>	<p>※「情報の収集」、「整理・分析」に重点</p> <p>・アンケートの作成は、Google Formで行う。</p>
8 5 10	<p>[Part 4]</p> <p>■ フードロス、フードウェイストの問題に対処するためのテクノロジーについて理解したことを踏まえ、それらの問題が起こる5つの段階ごとの「アクションプラン」をグループで話し合ったことを基に、具体的に書いてまとめることができる。</p> <p>■ 生成AIを活用して、グループの考えを深め、発表内容をより論理的に書いてまとめることができる。</p> <p>⑥ 教科書本文を聞いたり読んだりして内容を理解したことを踏まえ、情報や考えなどを伝え合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合った内容を基に、「アクションプラン」をスライドにまとめる。</li> <li>・生成AIを活用し、言語面や内容面などのフィードバックを得る。</li> <li>・アメリカ・ハワイ州ワイパフ高校の生徒から得たアンケート結果を分析し、発表に活用する。</li> </ul>		<p>※「整理・分析」、「まとめ（・発表）」に重点</p>
1 1	<p>■ 前時までに整理した内容を踏まえ、身近で取り組める具体的な「アクションプラン」について、自分の考えを論理的に話して伝えることができる。</p> <p>⑦ 整理した内容を基に、他のグループと相互に発表練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いにフィードバックを行う。</li> </ul>		<p>※「まとめ・発表」に重点</p>
1 2	<p>■ 身近で取り組める具体的な「アクションプラン」について、自分の考えを論理的に話して伝えることができる。</p> <p>⑧ クラス全体に対して「アクションプラン」の発表を行う。</p>		<p>○ ○ ○</p>

## 5 パフォーマンステストの実施計画

領域	□ 話すこと [やり取り]      ■ 話すこと [発表]      □ 書くこと
関連する Can-Do リスト	第2学年 ・話すこと [発表] 日常的な話題や社会的な話題について、情報や自身の考えなどを多様な語句を用いながら、2分程度で詳しく話して伝えることができる。
指示内容	本単元の学習内容を踏まえ、フードサプライチェーンの中で起きる課題の解決に向けた「アクションプラン」について、プレゼンテーションを行ってください。
実施方法	・Google スライド等を用いたグループ発表（3人1組）とする。 ・スライド枚数は4～5枚程度とし、発表時間は3分とする。 ・聞き手は、各グループのアクションプランが「実現可能かどうか」を基準に、投票する。

## ■ 採点の基準

パフォーマンステストの評価について以下に示す。

## ○ 「思考・判断・表現」についての2つの条件

条件1：調べたことを基に、食品ロスが起こる原因と結果を説明している。

条件2：身近で取り組める「アクションプラン」を提案している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードロス、フードウェイストについて発表するために必要な語彙や表現が適切に使用されている。</li> <li>・聞き手にわかりやすい音声で話している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの条件を満たして伝えている。</li> <li>・具体的なデータ等を基にして、実行する「アクションプラン」のメリットを論理的に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの条件を満たして伝えようとしている。</li> <li>・具体的なデータ等を基にして、実行するメリットを論理的に伝えようとしている。</li> <li>・グループの一員として自分の役割を主体的に果たし、英語で積極的に伝えようとしている。</li> </ul>
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多少の誤りはあるが、フードロス、フードウェイストについて理解に支障のない程度の語彙や表現を使用している。</li> <li>・理解に支障のない程度の音声で話している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの条件を満たして伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの条件を満たして伝えようとしている。</li> <li>・グループの一員として自分の担当分を、概ね理解できる英語で伝えようとしている。</li> </ul>
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

## 6 本時の展開（4 / 12 時間目）

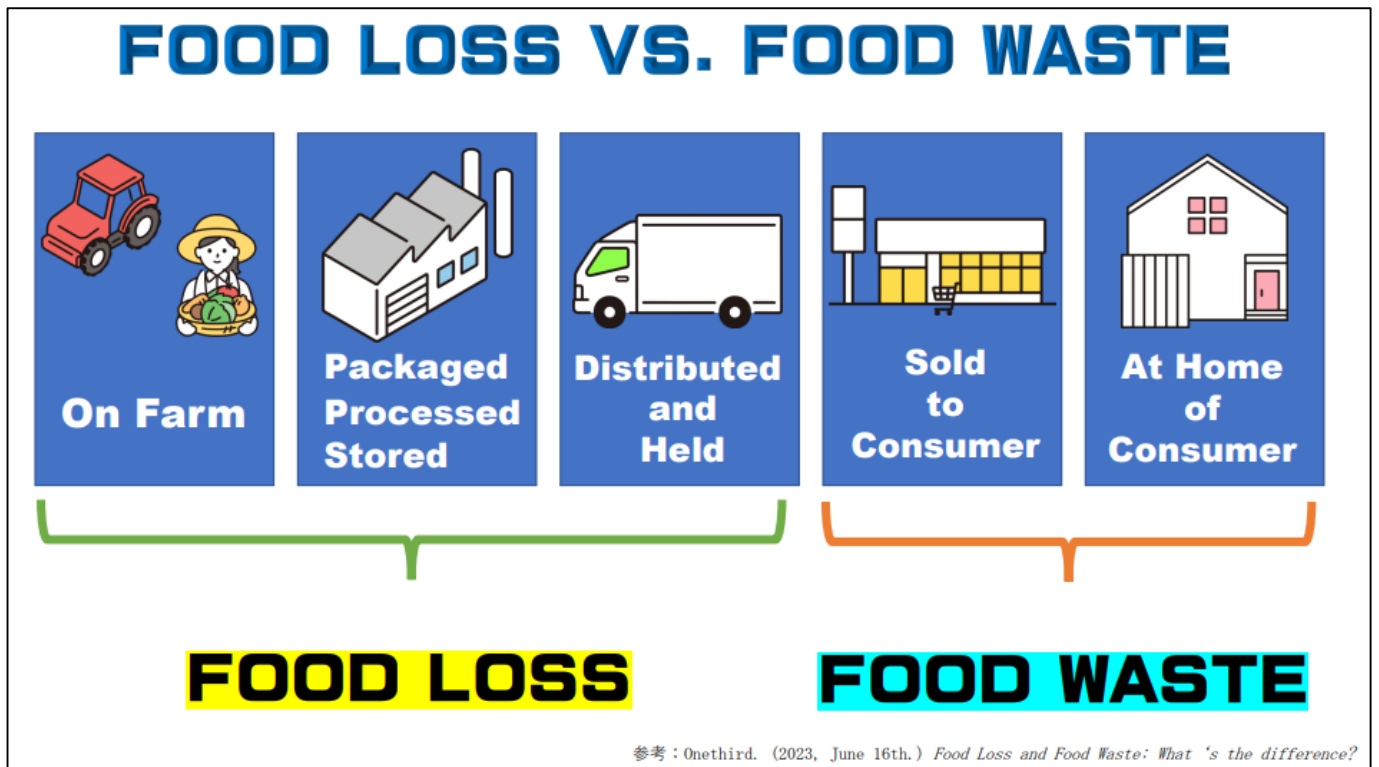
## (1) ねらい

- ・サプライチェーンの過程で起こるフードロス、フードウェイストの問題について、問題の原因や結果とともに話して伝え合うことができる。
- ・クラスメイトと意見交流をしたり、生成 AI を活用して表現内容を見直したりすることを通じて、自分の考えを深めることができる。

## (2) 展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	本時の目標と課題の提示	提示された本時の目標と課題を確認する。	本時の目標と課題について、簡潔に説明する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返りと用語の整理</li> <li>・具体的な課題についての情報収集</li> <li>・具体的な課題の共有</li> <li>・生成 AI を活用したフィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードロスとフードウェイストの定義について、ペアで確認する。</li> <li>・「食品ロス」を加えた際のイメージ（図1）を共有する。</li> <li>・Part 1で行った身近な事例の共有を元に、フードロスとフードウェイストに仕分ける。</li> <li>・グループに割り当てられたフードサプライチェーンの1つに対して、具体的な問題とその原因と結果を調べ、ハンドアウトにメモとしてまとめる。</li> <li>※食品ロスが起こる5つの段階 1 On Farm 2 Packaged, Processed, Stored 3 Distributed and Held 4 Sold to Consumer 5 At Home of Consumer</li> <li>・収集した情報を基に、具体的な問題について、原因や結果とともに話して伝える。</li> <li>・生成 AI に対して自分が話した内容を入力し、表現内容について、言語面と内容面から修正を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの確認後、クラス全体での確認を行う。</li> <li>・図1参照</li> <li>・Figjam ボードのコピーを配信し、個人→ペア→全体の順で比較し、整理する。その後、全体で結果を確認する。</li> <li>・図1の食品ロスが起こる5つの段階を、各グループにランダムに割り当て、そこで起こる問題→原因・結果の順でまとめるように伝える。</li> <li>・調べた内容を話して伝える際に必要な表現をいくつか示し、生徒が必要に応じて活用できるようにする。</li> <li>・ペアを変えながら、複数のクラスメイトと課題を共有できるようにする。</li> <li>・フィードバックの観点は、「より論理的な内容にするには何が必要か」、「より正確な英語表現にするにはどのような修正が必要か」の2点とする。</li> </ul>
まとめ	次回に向けて	・フィードバックによる気づきや学びを基に、リライトしてまとめる。	・次回は、グループ単位でまとめたものを共有することを伝える。

(図1)



Onethird. (2023, June 16th.) *Food Loss and Food Waste: What's the difference?*  
<https://onethird.io/one-third-blogs/food-loss-and-food-waste-whats-the-difference>